

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [東辻悠聖]

学年・組・番号 [3 年 G 組 20 番]

研究課題: 対馬の固有環境を守るための対策

(英文) Measures to protect Tsushima's specific environment

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

対馬にはその閉鎖的環境から固有の生態系が確立されており、その中には対馬にのみ分布する動植物も存在する。その一部であるオウゴンオニユリやツシマランなどの固有植物は過去に島内の複数箇所で確認されていたが、シカ食害により現在では 1,2 箇所のみでしか見られない。1966 年にシカが国の天然自然記念物に登録されて以降、200 頭程であった生息数は 2 万頭にまで増加してしまっ。2006 年に天然記念物から除外されたものの過度に増加したシカによる被害は深刻だ。この状況を受けて我々はシカ対策について研究した。事前に先行研究や対馬市から公表されているデータなどを調査し、その上で実際に現地へ赴きお話を伺うという手法を取った。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

まず、対馬市から公表されているシカの個体数データを調べたところ、昭和 55~57 年度には 2000 頭にも満たなかったシカの個体数は今や約 40 倍になっていた。次に被害額についても調査したところ年々増加しており、この 2 つのデータを見比べると、農作物被害がシカの個体数の増加に伴い増加していることが推測できた。そして現地にて元対馬市島おこし協働隊の高田陽氏にお話を伺ったところ対馬では鹿による農作物食い荒らし、踏み倒し被害、スキ・ヒノキの樹皮剥ぎによる林業被害、下層植生の減少による土砂流出といった生態系にも影響が出ている状況であり、対策が必要であるということがわかった。

以上を踏まえ、我々はジビエを活用した解決策を提案したい。現在、対馬は大量の韓国人観光客が訪れる一大観光地となっている。ジビエ料理を対馬の名産として韓国人観光客を中心に認知してもらい、シカの需要を増やすことでシカの個体数を減らすことができるのではないだろうか。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3 年 G 組 東辻悠聖

研究分担者 3 年 G 組 藤倉鼓太郎 3 年 G 組 上東佑羽 3 年 E 組 中谷翼

2 年 K 組 須磨結生 2 年 E 組 境野史人

担当教諭 柿沼亮介 (受給額: 26000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

昭和55～57年度	1,205頭	平成16年	3,108,000円
平成4～5年度	2,730頭	17	1,597,000円
平成8～9年度	28,783頭	18	7,465,000円
平成12～13年度	56,368頭	19	8,559,000円
平成16～17年度	49,309頭	20	5,730,000円
平成23年度	33,416頭	21	14,689,000円
平成25年度	46,479頭	22	15,387,000円
平成27年度	39,200頭	23	32,304,000円
令和2年度	41,700頭		

推定生息頭数（対馬市 HP より）

シカ・イノシシによる農作物被害額
(第七回全国鳥獣被害対策サミット報告書より)



高田陽氏にお話伺った際の様子

以上